

語彙の学習方法と定着率

英語班 石本弥生 岡崎菜摘 西野日菜

1. はじめに

私たちは、テストのために英単語を覚えても時間が経つとすぐに忘れてしまうことから、どのような方法で学習をすれば、時間が経っても覚えていられるかについて興味を持ち、定着率に重点を置いて研究をすることにした。

2. 仮説

- ・単語だけで学習するよりも、フレーズを用いて学習したほうが語彙の定着率が高い。
- ・アウトプットを行うとより定着率が上がる。

仮説の根拠

第二言語習得の様々な仮説

インプット仮説：理解可能な文を読んだり聞いたりすることで第二言語の習得が起こるといふ仮説。

アウトプット仮説：言語を習得するためには、聞いたり読んだりするだけでなく、話したり書いたりすることが必要だといふ仮説。

気づき（認識）の機能：言語形式についての気づきが第二言語習得に重要な役割を果たしている。

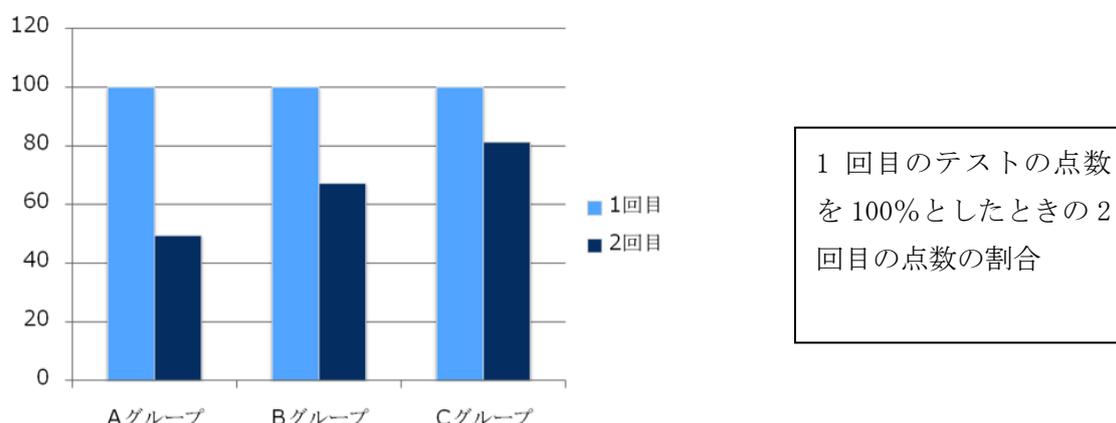
以上の仮説などから、外国語（英語）の語彙を学ぶ際、フレーズで覚えることで実際にその語彙がどのように使用されるかを理解することができるとともに、実際にアウトプット活動を行うことで語彙の定着が起りやすいのではないかと考えた。

3. 研究の過程

- (1) 語彙に関するテストを行い、語彙力が均等になるよう 10 人ずつ 3 つのグループに分ける。
- (2) それぞれのグループに覚えるべき語彙のリストを渡し、学習方法を説明する。
 - Aグループ：英単語の意味をそのまま覚える。
 - Bグループ：英単語をフレーズの中で覚える。
 - Cグループ：英単語をフレーズの中で覚え、写真や絵を見ながらその内容を学んだ語彙を使って話す。
- (3) 2 週間後に学んだ語彙に関するテストを実施する。
- (4) テスト結果の分析を行う。

4. 研究結果

定着率はC. B. Aの順に高かった。



5. 考察

(1) AグループよりBグループのほうが定着率が高かった理由

- ・フレーズで覚えた方が単語で覚えるよりも思い出す手掛かりが増える。
- ・音声で覚える時にリズムをつかみやすい。
- ・フレーズ全体からその単語のイメージを映像で思い浮かべることができる。

(2) Cグループが最も定着率が高かった理由

- ・アウトプットを行い、言えることと言えないことの判別がつき、言えないことについては覚えなおすきっかけになる。
- ・人とのコミュニケーションの中で伝えられなかったことが経験として印象に残りやすい。

6. まとめ

語彙の定着率をあげるには、単語だけで覚えるよりもフレーズで覚えた方が効果的であり、またフレーズでの学習に加えてアウトプット活動を行うとさらに効果的に学習を行うことができる。

7. 参考文献

- ・ Krashen, S. (1985). The Input Hypothesis: Issues and Implications. Torrance, CA: Laredo Publishing Company, Inc.
- ・ Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Cook & Seidlhofer, B.(Eds.), Principle and Practice in Applied Linguistics (pp.125-144). Cambridge: Cambridge University Press.
- ・ Ellis, R., Tanaka, Y. & Yamazaki, A. (1994). Classroom interaction, comprehension, and the acquisition of L2 word meanings. Language Learning, 44:3, 449-491.